

JR北海道の現状

- 石勝線の事故以降、度重なる車両トラブル、運転士のATSスイッチ破壊、貨物列車脱線事故、整備基準値を超える軌道変位の放置、検査データの改ざん等、鉄道事業者としてあってはならない異常な事態が続いており、基本的な資質を一から問われている状況
 - 一方で、北海道の生活・経済を支える基幹的な鉄道であり、代替し得るものがない状況
- ⇒ 日々の輸送の安全を確保しつつ、総合的・抜本的な措置による徹底的な再生が必要

平成25年9月19日の貨物列車脱線事故に関する問題

- 3ヶ月以上も、大幅な「軌間」の軌道変位等を放置するという輸送の安全上重大な問題
- 事故直後に軌道変位の検査データ等を改ざんし、行政当局等へ提出するという鉄道事業者としてあるまじき重大な問題

改ざん問題に対する基本認識

- 脱線事故に関する改ざんのほか、副本線・分岐器に関する軌道変位の検査データ等を改ざん
 - 動機等としては、監査での発覚逃れや改ざんの常態化等
 - 鉄道事業者・鉄道行政にとって、正確な検査、記録等が安全確保の根幹
- ⇒ 改ざんは、輸送の安全確保の仕組みを覆すものであり、その動機等のいかんにかかわらず、いかなるものであっても絶対容認できないもの
- ⇒ 報告徴収・立入検査の制度の趣旨を否定する行為に対し、厳正な対処が必要

安全確保問題に対する基本認識

- 当初報告では270箇所 of 軌道変位が放置(この報告には分岐器関係が含まれていない等の問題あり)
 - 現場は、輸送の安全確保のためになすべき作業が行われておらず、職員の責任感や安全意識が欠如
 - 本社は、現場の状況を把握せず、対応を現場任せにし、資金面・人材面の対応が不十分
 - JR北海道の輸送の安全上の問題は、複合的な要素により顕在化
- ⇒ 社を挙げて深く反省し、個々の輸送の安全上の問題に1つ1つ対応するとともに、企業体質・組織文化を含めて構造的な問題について改革が必要

JR北海道が講ずべき措置

- ① 日々の輸送の安全の確保
- ② 第一歩の改善
 - ・ 改ざんの根絶
 - ・ 安全管理体制の再構築
 - ・ 安全確保を最優先とする事業運営の実現
 - ・ 技術部門の業務実施体制の改善
 - ・ 第三者による安全対策監視委員会(仮称)の設置
- ③ 更なる安全確保へ
 - ・ 安全意識の啓発や安全風土の構築を実施するための組織の整備 等

国土交通省が講ずべき措置

- ① 実行性担保のための取組み
 - ・ JR北海道からの定期的な報告、必要な助言や対策の指示
 - ・ JR北海道に対する常設の監査体制で、定期的・随時に監査を実施
 - ・ 鉄道・運輸機構からの600億円の設備投資支援の活用を前倒し
- ② 鉄道事業法の事業改善命令、JR会社法の監督命令等、法令上厳正な措置
- ③ 今後、新たな安全上の課題が生じた場合には、迅速・機動的に対応し問題を解決、必要に応じ厳格に対応